

ストレプトマイシン・チオファネートメチル水和剤 アタッキン水和剤	取扱メーカー： 日本曹達 原体メーカー： 日本曹達，日本曹達
成分： ストレプトマイシン硫酸塩〔抗生物質〕………18.8% （ストレプトマイシンとして15.0%） チオファネートメチル〔ベンズイミダゾール系 PRTR・1種〕…50.0%	性状： 類白色水和性粉末45μm以下 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】 ……………

●広範囲の病害に有効なトップジンMと細菌性病害に効果のあるストレプトマイシンとの配合剤である。

●茎葉散布で使用する他、ばれいしょには種いも消毒用としても使用できる。

●浸透性があり、予防、治療効果が期待できる。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】 ……………

●過度の連用をさけ、なるべく作用性の異なる他の防除薬剤と組み合わせて交互に使用する。

〈ばれいしょ〉

●萌芽前に種いもを切断せずに処理する。

●浸漬処理の場合、所定の浸漬時間及び希釈倍数を厳守する。

●散布の場合は種いもを床などに十分に広げ、種いも100kg当り2.5～3ℓの割合で種いも全体が均一に濡れるように丁寧に散布する。

●薬剤処理した種いもは風通しのよい所で速やかに乾燥させる。

●種いもを切断する場合は、処理した薬液が十分乾いてから行う。

〈もも〉

●せん孔細菌病に対して、袋掛直前～秋口にかけて散布する。

〈キャベツ〉

●薬害を生じやすいので、高温条件下での連続散布はさける。

〈はくさい〉

●2～3葉期から株元を重点に10日おきに散布する。高温時又は幼苗時には使用しない。

〈チューリップ〉

●チューリップの球根消毒に使用する場合、発根後に処理すると薬害を起こすおそれがあるので、根が動き出す前に処理して植え付ける。

【薬効・薬害等の注意】 ……………

●作物の種類、環境により、また、高温多湿などに、黄白色の斑点が散布した葉に生じることがあるが、通常1週間位で消失してしまうので作物に対する実用上の影響は認められない。

●ボルドー液及び石灰硫黄合剤などのアルカリ性の強い薬剤との混用はさける。

●適用作物（ばれいしょ、はくさい、チューリップなど）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】 ……………

●藻類に影響を及ぼすおそれがあるので使用時は注意。



【適用と使用方法】

作物名	適用病害名	希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	ストレプトマイシンを 含む農薬の総使用回数	チオファネートメチルを 含む農薬の総使用回数
も も	せん孔細菌病 黒星病	1000 倍	200～ 700 ℓ	60 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内	10 回以内 (塗布は 3 回 以内，休眠期 の散布は 1 回 以内，生育期 の散布は 6 回 以内)
う め	かいよう病 黒星病	800～ 1000 倍		90 日前 まで				6 回以内 (塗布は 3 回 以内，散布は 3 回以内)
キャベツ	菌核病	1500 倍	100～ 300 ℓ	14 日前 まで			3 回以内	3 回以内 (種子への処 理は 1 回以 内，は種後は 2 回以内)
はくさい	軟腐病 白斑病	1000 倍						
たまねぎ	軟腐病 灰色腐敗病	800 倍		7 日前 まで	5 回 以内		5 回以内	7 回以内 (種子への処 理は 1 回以 内，苗根部 浸漬は 1 回以 内，無人へり 散布は 3 回以 内，散布は 5 回以内)
ばれいしょ	黒あざ病 黒あし病	40 倍	—	植付前	1 回	5～10 秒間種い も浸漬	5 回以内 (種いもへ の処理は 1 回以内)	5 回以内 (種いもへ の処理は 1 回以 内)
	そうか病		種いも 100kg 当り 2.5～ 3 ℓ			種いも 散布		
		40～ 60 倍	—			5～10 秒間種い も浸漬		
こんにゃく	乾腐病 腐敗病	1000 倍		貯蔵前又 は植付前		1 時間種 いも浸漬	6 回以内 (種いもへ の処理は 1 回以内)	1 回
		30 倍	平置き した種 いも 1m ² 当 り 150 ml	植付前		種いも 散布		
チューリップ	球根腐敗病 かいよう病	球根重 量の 0.2 ～0.5%	—	貯蔵前又 は植付前		球根粉衣	1 回	5 回以内